

## 通級指導教室（まなび・ことば）「自立活動」学習指導案

児童 4年 男子2名（AC） 女子1名（B）  
指導者 T1 T2

## 1 単元名「聞こう・話そうⅡ」

## 2 児童と単元について

## (1)児童について

児童は、昨年度からSSTの学習に取り組んでいる。3分の1単位時間という短い学習時間ではあったが、活動を楽しみながら人とかかわることをめあてとし、ゲームを中心に取り組んできた。本年度から、1単位時間の学習活動となり、児童は、共にグループ学習をする友達の名前を覚え意欲的に通級している。活動への参加も積極的で表情も穏やかである。

これまでに児童は、2つの単元に取り組んでおり、その中で担当や児童の話を読み「分きたい」という気持ちを相手に伝えられるようになってきた。単元「SSTって何？」では、ソーシャルスキルトレーニングの「意味」「目的」「一緒に活動する友達」「良い行動」の4つを学習した。「良い行動」とは、「ありがとう」「返事」「ごめんなさい」「あいさつ」の4つである。あいさつや返事、感謝のことばも、自然と口にしており相手の良さを認め賞賛の拍手を送るようになってきた。また、単元「聞こう・話そうⅠ」では、聞き方や話し方の態度面に着目し、担当の演示を見ながらスキルの意義について学習した。「旗揚げゲーム」「そうですねゲーム」「インタビューゲーム」「カードめくりゲーム」「すごろくゲーム」などのゲーム活動を通して、「聞くスキル」と「話すスキル」の実演を、一人ひとり楽しみながら行ってきた。また、がんばったことや実演して感じたことを振り返り、思い出して書いたり話したりすることにも抵抗が少なくなっている。そして、「相手に体をむけること」「最後まで話を聞くこと」「相手を見て話すこと」「分からないことは聞き返すこと」の必要性を感じて行動しようと意識する面もみられるようになってきた。

学級では、尋ねられたことに対して自分の思いを、自分なりのことばや身振りで意思表示しており、話す相手を見たり視線を合わせたりしながら聞くことも少しずつ意識しはじめている。休み時間は、一人で過ごすことや低学年の児童といることに心地よさを感じているようだが、時折、通級している児童に声を掛けたり、一緒にいたりする場面もみられるようになってきた。学習においては、興味や関心のある事柄については集中して話を聞き、熱心に活動をしているようである。

本単元にかかわる児童の実態と学級におけるめあて、保護者及び担任の願いについては、次の通りである。

<実態> ○は児童の自己評価、●は担任・担当の評価

	4年 A男	4年 B女	4年 C男
あいさつ	○挨拶を返している。 ●相手に進んであいさつをする。	○目を見て挨拶している。 ●自分から笑顔であいさつする。	○挨拶を返している。 ●相手の目を見てあいさつする。
返事	○呼ばれたら返事をしている。 ●すぐに返事をする。	○返事をしている ●相手を見て返事をする	○返事をしている ●相手を見てすぐに返事をする。
お礼	○ありがとうと言っている ●お礼のことばを相手に話す。	○ありがとうと忘れずに言ってる ●お礼のことばをこまめに話す。	○ありがとうと忘れずに言ってる ●お礼のことばを相手に話す。
謝罪	○謝らないときがある。 ●謝ることばを相手に話す。	○悪い時は謝っている ●謝ることばをすぐに話す。	○悪い時は謝っている。 ●謝ることばを相手に話す。
聞く	○先生の方を見て聞く。 ●相手に体をむけて聞く。 ●分からないことは、聞き返す。	○目を見て話を聞いている ●相手の目を見て聞く。 ●うなずきやあいづちをうって聞く。	○最後まで話を聞いている ●相手を見ながら最後まで話を聞く。 ●うなずきながら聞く。

話す	○相手の方を見て話す。 ●相手に体をむけて話す。 ●自分の思いを話す。	○相手の方を見て最後まで話す。 ●相手の目を見て話す。 ●自分が分かることばで話す。	○相手の方を見て最後まで話す。 ●相手の方に体をむけて話す。 ●みんなの前で話す。
----	---	--	---

<願い>

	4年 A男	4年 B女	4年 C男
児童のめあて	・話をしっかり聞こう ・友達と仲良くしよう	・国語と算数がんばろう ・廊下を静かに歩こう	・理科と音楽をがんばろう ・廊下を静かに歩こう
保護者・担任の願い	・状況や行動、気持ちを理解する ・相手へのかかわり方を理解し行動する ・相手とかかわる楽しさを感じる	・相手とのかかわり方を理解し、関係を保つ	・自分から相手にかかわる ・自分の気持ちや行動を、ことばで相手に伝える

(2) 単元について

ソーシャルスキルトレーニング（SST）とは、「人間が社会で生きていくのに必要な技術習得を目的とした練習のこと」であり、「集団生活の中で生かすために行う、個別やグループでの練習」と捉えた。児童にとっては、発達段階に応じてSST学習の場を設定し、小学校段階で身につけたいスキルを精選しながら学習活動に取り組みせ、学級や校内生活の場で活用する力をつけさせたいと考えた。

一人ひとりの実態をみると、[集団行動]では「約束した時間を守ること」「ありがとうと言って感謝を伝えること」、[仲間関係]では「知っている人にあいさつすること」が身に付いてきている。一方、「話を集中して聞くこと」「話された内容を理解すること」「聞かれたことに対してきちんと答えること」「説明すること」「人前で適切に発表やスピーチをすること」「仲良く親和的に遊ぶこと」「遊びを続けること」「ゲームのルールを理解できること」に困難さがみられる。

そこで、まずは通常学級での実態や高学年に向けての生活を踏まえ、基本的な[聞くこと][話すこと]のスキルを実践させたいと考えた。そのために、前単元「聞こう・話そうⅠ」で学習したことを、学級や校内の生活で意識させるよう[聞くこと][話すこと]のスキルを繰り返し、学習の定着を図ることとした。また、「最後まで聞く」「分かるように聞く」「聞いたことをもとに自分の思いを話す」ために、前単元「聞こう・話そうⅠ」の学習をレベルアップさせて、5W1H（いつ、どこ、だれ、なに、どのように、なぜ）の視点を加え、本単元「聞こう・話そうⅡ」を設定した。

SSTの学習活動は、まず児童が安心して取り組めるよう、活動の流れを固定して掲示する。それにあわせ、学習の内容を簡潔なことばで示したのもも提示し、「何を学習しているのか」がより分かりやすいようにする。単位時間の流れは、①「授業の準備・読み聞かせ」（はたらく・聞く）②「はじめのあいさつ」（話す、しせい）③「スキルの学習」（おぼえる）④「児童の実演」（やってみる）⑤「振り返りカードの記入」（思い出して書く）⑥「振り返りカードの発表（思い出して話す）」⑦「授業の片づけ・ファイルの提出」（はたらく）⑧「次時の予定」（聞く）⑨「おわりのあいさつ」（話す、しせい）である。「単位時間の流れ」は単元を通して固定するが、単元が進むにつれねらいとする活動の時間をふやす。そして、児童の実態に合わせて、集中する時間を延ばしていくよう時間配分を段階的に調整する。また、人とかわる楽しさを味わったり、他人の感情に共感して、自分の感情をコントロールしたりすることが過度な負担とならないように、「実演」では、ゲーム活動を取り入れることとした。ゲーム的要素を取り入れた実演は、意欲の持続が図られ、好ましい人間関係を築き維持する技能を身につけるためにも有効な手段である。演習を楽しむことによって必要なスキルも習得しやすい。また、ゲーム活動の際は良識ある大人も参加することで、モデルをみながら意図的に学ぶことができると考え、T1とT2が児童役に加わる。遊びを通して学ぶソーシャルスキルには、メンバーに加わるという「集団参加」、分からないことは聞くという「質問」、順番を抜かされた時の「自分の権利の主張」、誰かが順番を抜かされたことに気づいた時の「友達のための主張」、ルール違反した時の「謝罪」、ゲームに負けた時の「自己統制」、友達の様子をみとった時の「他人の感情理解」など多様なスキルが盛り込まれている。これは、「仲間関係の開始や維持」に必要なスキルであり、前単元[聞くこと][話すこと]のスキルを活用しながら培われるものである。

### (3)指導について

通級教室の場が児童にとって認められる場となるよう、まずは児童の行動を共感的に受け止めたい。活動にあたっては、担当者も活動を一緒に楽しむようにし、相手と相互にかかわる楽しさを味わわせるようにしていく。児童に対する言葉がけは、具体的肯定的にすることを意識する。児童に適切な言動を促すためには様々な指導がある中で、モデリングは必要であり、模倣できたら賞賛して強化を図りたい。そして、活動の一つひとつが「理解できているか」「理解できない時はどんな時か」をTTによりきめ細かく観察する。正しい言動を促すためには、児童のことばを言語化・モデル化し児童に復唱させ、認め賞賛することで強化を図りたい。児童によっては、視覚優位で同時処理認知傾向があるので、必要な情報を全体的に視覚化し、活動の見通しをもたせた上で細分化を図る。スキルの習得にあたっては、モデリングから気づいたことを話し合わせ、簡潔にまとめ概念化する。活動全体を通して、自己肯定とセルフコントロールの両者が常に行われるよう受容的にかかわるようにし、自分自身の気持ちや行動を振り返る場を意図的に設定する。ここでは、適切な言動に対してスキルの即時評価を行う。賞賛にあたっては、児童が好ましい行動をしたら、すぐその場で、「ことば」や「ポイントシール」で褒め、「何が」「どう」良かったのか具体的に伝えるようにしたい。そして、達成できていることを認め成功体験の積み重ねを図りたい。

また、活動時間を有効に活用するため、学習の準備（椅子・ファイル提出）と読み聞かせの準備は同時進行とする。読み聞かせの終了時点が学習の始めとなるように挨拶をして、静かな環境の中で聞く構えをつくれるようにしたい。「読み聞かせ」は、一人ひとりの理解状況に合わせて絵本を選定し、聴視力育成の一助とする。「あいさつ」は輪番とし、環境を適正化することで、人前で発表できる体験を積む。「スキル学習」での主な視覚支援は、演示・板書・寸劇・文字カードや絵カードの提示である。板書の際は、児童の思考過程にそって理解を促すために、色分けや方向、簡潔さに配慮したい。「実演」では、体験したことのあるすぐろく遊びを通して、児童が相手に話す活動を仕組む。そこでは、内容をかえたり課題を段階的に示したりすることで、柔軟な社会適応ができる基本を築いていく。話すテーマは、学校や家庭での身近な場面で状況認知しやすい絵カードを提示し、5W1Hカードを確かめながら話すようにする。みんなの前で話したことが、互いに認められるよう「スペシャルステージ」を設定し、5W1Hをいれ最後まで話すことに挑戦する。

「ふりかえり」では、通級教室での学習が学級生活等に生かせることを願い、通級指導の場以外で何を意識して取り組みたいか文章化する。自分自身をより振り返りやすくするために、活動場面を記録したビデオを視聴させ、見る観点を示しながら振り返らせることにより、個々のスキル習得への意識付けを図る。また、書くことや発表することへの支援は、選択肢を与え対話を通して書いたり発表させたりする。発表の際は、「書いたことを読む」「書いたことについて質問に答える」というように課題をスモールステップにする。

事後には、学級担任と互いに情報交流し児童の様子を共通理解する。児童のがんばりを学級において認めってもらうよう働きかけ、意欲付けと周囲児童への理解を図る。児童が通級してきた際には、担任と共有した情報や評価をもとに児童の行動を認め、学校生活における一人ひとりの困難性の改善を図っていく。

### 3 単元の目標

児童名	単元の目標
4年A	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習するスキルの意義を理解する。</li><li>・気持ちを相手に向け、5W1Hに気をつけて話を聞く。</li><li>・話しかける相手を見て、話す。</li></ul>
4年B	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習するスキルの意義を理解する。</li><li>・5W1Hに気をつけ、内容が分かるように聞く。</li><li>・5W1Hに気をつけ、主述を対応させながら適切に話す。</li></ul>
4年C	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習するスキルの意義を理解する。</li><li>・5W1Hに気をつけて話を聞き、分からないことは聞き返す。</li><li>・自分から5W1Hを組み合わせて、適切に話す。</li></ul>

#### 4 単元の指導計画(7時間) 本時は6時

	聞 く ス キ ル	話 す ス キ ル
1	○相手の顔を見る ○5W1Hを考え最後まで聞く	○相手の顔を見る
2	↓ ↓ ○5W1Hを聞き返す	↓
3	↓ ↓ ↓	↓ ○5W1Hを一つずつ話す (いつ、どこ、だれ、なに、どのように、どうして)
4	↓ ↓ ↓	○5W1Hを組み合わせて話す
5	↓	○5W1Hを組み合わせ適切に話す (最後まで話す)
6 (本時)	↓	↓ (助詞に気をつけて話す)
7	↓	↓ ↓

#### 5 本時の指導

##### (1)本時の学習スキル

○話すスキル

- ・5W1Hをいくつか組み合わせながら、助詞に気をつけて話す。

##### (2)児童の目標

児童名	本時の目標
4年A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習するスキルの意義を理解する。</li> <li>・5W1Hをいくつか組み合わせ、助詞に気をつけて話す。</li> </ul>
4年B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習するスキルの意義を理解する。</li> <li>・5W1Hをいくつか組み合わせ、助詞に気をつけて話す。</li> </ul>
4年C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習するスキルの意義を理解する。</li> <li>・5W1Hをいくつか組み合わせ、助詞に気をつけて話す。</li> </ul>

(3)展開

	学習活動	教師のかかわりと支援 ◎評価		準備
		T 1	T 2	
はじめよう 10分	1 学習の準備をする。 (椅子の準備、ファイルの提出)  読み聞かせを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイルに目を通し、学級でのがんばりを認め伝える。</li> <li>・児童の聴視の様子をみながら絵本の読み聞かせをし、落ち着いた雰囲気づくりをする。</li> <li>・みんなで絵本の内容を振り返るため、答えられそうなことを予想して尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイルに目を通し学級でのがんばりを認め伝える。</li> <li>・注意集中につまずいた時は絵カードで行動の修正が自主的になされるよう促す。</li> <li>・話すことに戸惑った場合は、モデルを示す。</li> <li>・モデルを模倣できたら賞賛する。</li> </ul>	名札 シール 絵本
	2 始めのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習スキルの観点で即時評価し、賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、姿勢保持の為背筋をさわる。</li> </ul>	当番図
やってみよう 30分	3 スキルの学習をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>話すスキル</p> <p>5W1Hを取り入れながら、助詞に気をつけて話す。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム場面の状況設定をし、既習スキルを想起できるようモデリングする。</li> </ul> <p>&lt;聞き手の役&gt; 相手を見て最後まで聞く。 5W1Hについて聞き返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意義理解のためT 1と共に実演し、気づいたことを話し合わせ簡潔にまとめる。</li> </ul> <p>&lt;話し手の役&gt; 話を途中でやめる。 5W1Hの中で、聞かれたことや助詞を、意図的に抜かして話す。</p>	紙板書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演技を見て気付いた事を話す。</li> <li>・聞きやすい話し方は、どうすればよいのか考えて話す。</li> <li>・望ましいスキルをみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積み重ねに対する意欲付けを図るため、良い行動の時にはポイントシールをはる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルの意義と行動の仕方を理解するため、上記のモデルを提示し、実演を働きかける。</li> </ul>	ポイントシート・シール ポイントコーナー
4 スキルの実演をする。  <お話人間すごろく> ①方法とルールを理解する。 ②スキルを確かめる。 ③ゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出た目の数だけ進みカードを引く</li> <li>・絵カードを見て5W1Hを考えいくつか組み合わせ、適切に話す。</li> <li>・聞いて分からないことは聞き返す。</li> <li>・聞かれたことに答え適切に話す。</li> <li>・スペシャルステージに止まったら5W1H全ていれ、全員が順番に話す。</li> </ul> ④ゲームを片づける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童役になって活動を一緒に楽しみ「話し手」「聞き手」のモデルを示す。</li> <li>・児童の実態を把握するために「どんな時」に「どのように行動しているか」観察しながらゲーム活動に参加する。</li> <li>・表情、うなずき、相づち、賞賛のことばで、児童のがんばりを認め、ポイントシールをシートにはる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解を促すため、実物を示したり、短いことばで簡潔に説明したりする。</li> <li>・話す速さ、表情の変化、聞くポイントを分かりやすくする。</li> <li>・絵カードを見て話す場面を設定し話しやすくする。</li> <li>・実演の評価を具体的に示す。</li> <li>・話す時に戸惑った場合は、ヒントやモデルを言語化して示す。</li> <li>・必要に応じて復唱を促す。</li> <li>・状況を捉えやすくするため</li> </ul>	お話しどころ 絵カード マス目用の輪 5W1Hカード 助詞カード ヒントカード ポイントシート・シール ポイントコーナー	

		◎ 5 W 1 Hをいくつか組み合わせ、助詞に気をつけて話したか。	ヒントカードを用意する。 ◎ 5 W 1 Hをいくつか組み合わせ、助詞に気をつけて話したか。	
	5 本時の振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き始めが難しい児童には、対話し、選択肢から書く見通しを与える。</li> <li>最後まで書いた事を賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想の視点を伝える。</li> <li>書き始めが難しい児童には対話し、選択肢から書く見通しを与える。</li> </ul>	振り返りカード・ヒントカード
	6 振り返りを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の成果を表情や拍手で賞賛し、ポイントシールをはる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して発表できるように、書いたことを見てもいいように促す。</li> <li>具体的な良さを伝える。</li> <li>本時のポイントシートを見せ、がんばりを賞賛する。</li> </ul>	
お わ ろ う	7 後始末をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>片づけ方や提出の仕方を覚え、行動していることを賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的な様子を見守る。</li> </ul>	
	8 次回の予定を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日付と曜日を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視線の移動先が分かるように場所を指さす。</li> </ul>	
5 分	9 おわりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの前で話したことを認め、次回の通級にむけ心地よく送り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的な様子を見守る。</li> </ul>	

#### (4)板書計画

準備	話すスキル	今日のスキル
絵本		
はじめのあいさつ	「だれ」	「で」
今日のスキル	「いつ」	「に」
ゲーム	「どこ」	「を」
振り返りを書く	「なに」	「は」を使って話す
振り返りを発表する		
片づけ		
おわりのあいさつ	「どのように」 「どうして」	